

会 議 録

会 議 名		粕屋町まち・ひと・しごと創生推進会議
開 催 日 時		平成27年8月4日（火） 午前・午後 10時 00分から 午前・午後 12時 00分まで
開 催 場 所		粕屋町役場 3階 31会議室
出席者 氏名	委 員	【学識経験のある者】 （会長）宗像 優 【県の職員】 岩切 真弓 【町の区域内の公共的団体の役員又は職員】 八尋 新祐、岡本 房子、安河内 達 【公募等による町民】 大賀 愛、小西 國博、清水 良彦
	職員・職氏名	町 長 因 清範 総務部長 安河内 強士 【事 務 局】 経営政策課長 山本 浩、総合政策係長 野田 悠紀 総合政策係 木場 洋介、國司田祐己、安松 祥平
欠席委員（者）氏名		
会議の公開・非公開		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 <input type="checkbox"/> 全部非公開
会議を公開しない理由		
傍聴人の数		0人
会議資料の名称		<ul style="list-style-type: none"> ・粕屋町まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱 ・まち・ひと・しごと創生とは ・粕屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定方針 ・粕屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定スケジュール ・粕屋町人口ビジョン（素案）

審議会等の内容

1. 開会

2. 委員委嘱

3. 町長あいさつ

(因町長よりあいさつ)

4. 粕屋町まち・ひと・しごと創生推進会議について

(1) 推進会議の役割等

(事務局から説明)

・粕屋町まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱

(2) 委員紹介

(各委員から自己紹介)

(3) 会長の選出

会長 宗像 優

5. 議題

(1) まち・ひと・しごと創生とは

(事務局から説明)

・まち・ひと・しごと創生とは

(2) 粕屋町ひと・まち・しごと創生総合戦略 策定方針について

(事務局から説明)

・粕屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定方針

(3) 粕屋町ひと・まち・しごと創生総合戦略 策定スケジュールについて

(事務局から説明)

・粕屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定スケジュール

(質疑応答)

会 長 この会議は、人口ビジョンと総合戦略の2つを策定していくということで、8月中旬予定の第2回開催後、町のほうで素案等を作りながら、11月下旬の第3回会議で基本的な案が出てきて、審議をするということでしょうか。

事務局 そうです。

委 員 住民として細かい要望等を持っていますが、そういうものはどこに入るのでしょうか。また、ペーパー上の案だけを策定するのか、実施のためのプランなのか、教えてください。

事務局 今、町全体の行政運営をしていくための第5次総合計画を策定中で、その延長線上に総合戦略が位置づけられています。その中で「今後のまちづくりについて」ということをうたい、その中でも、特に地方創生に関わる内容や人口の対策の項

目等がこの総合戦略の中で取り上げられてきます。第2回会議が終わって第3回会議を開く間で、担当部署等と事務局で協議等を行い、具体的にどういうプランを立てていくのかを検討し、その内容を基に総合戦略として位置づけて、そして、その内容を検証していただく流れになるかと思っておりますので、8月終わりから11月下旬の間に各施策の具体的な内容の素案を作成する運びになります。

行政で何かをやるうとするときは予算を立てます。12月ごろに、来年度こういうことをやっていこうというものが出てきますので、その中に盛り込もうということです。実際、新年度に入って、やったことが反映されているというのは見えてこないと思いますが、町としては、毎年アンケート調査をしていくことで進捗状況を把握したいということです。その1つの物差しとして、KPIという指標を設け、その指標にいかにか近づいているかを検証します。また、町民が粕屋町に対してどういう思いをされているか、総合計画の中でアンケートを実施しており、今後も実施していく予定ですので、そういうことで町民の方の意識を確認しながら進んでいこうということです。

(4) 粕屋町人口ビジョン（素案）について

（事務局から説明）

- ・粕屋町人口ビジョン【素案】（第1章～第2章2－（2）まで）

（質疑応答）

委 員

これから総合戦略を作っていくわけですが、基本的には策定作業がぶれないように進める必要があると思います。そういう意味では、今日の説明の中で法律の説明がなされていません。「まち・ひと・しごと創生法」でうたっていることについて、これから総合的な計画を作るということですが、法律の第一条で「目的」をうたっています。その1つ目に、「国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成」とあります。2つ目に、「地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保」。3つ目が「地域における魅力ある多様な就業の機会の創出」。この3本の柱が基本になると思いますが、総合戦略を作るということですから、例えば、「国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会」という社会は粕屋町にはないということが前提だと思えます。こういう社会にしましょうと旗を立ててやるのですが、国や県が作ったひな型に地域の特性とって町名だけを変えて作ったのでは何もしないと思いますので、何が足りないのか、何が邪魔しているかということをお明らかにして新しい戦略を作っていく形で進めていただきたいと思えます。

1年後にはPDCAサイクルで検証しながらやっていくとなっています。1年後に結果は出ないと思いますが、一番重要なことは、それに向けて組織が機能しているかどうかです。うまくいかなかった施策を検証することが仕事でしたので、PDCAサイクルに当てはめて見ていましたが、大体、DとCがうまくできていません。Pでプラン、ここでいうと総合戦略を作ります。それだけでは人は動きませんので、要領やマニュアルを作ったり、会議をしたりします。それから動かしていったときにきちんと伝わったか、例えば、役場の全職員が理解しているかを検証できる仕組みを作る必要があると思います。報告させる、報告を受けてどうだったかを検証するという手順が必要です。そしてチェックの段階で、計画が悪かったのか、それとも人の動きが悪かったのかが明らかになりますので、それを踏まえて新しいアクションを起こすという具体的な流れで検証していく必要があると思います。役場で天下国家を語るとものが分からなくなりますので、あまり難しいことを考えず、役場では粕屋町を語ればよいと考えて進めていただきたいと思えます。

人口ビジョンについては、なかなか興味のある話ですが、これからの作業が大変だと思います。今のところ、「まち・ひと・しごと創生」の事業は失敗することを前提にトレンドができていないのではないかと思います。人の流れを変えまじょうと動かしていったときに、トレンドのままにはいかないだろうというところは検討の余地があると思います。粕屋町は将来に向けて人が増えることになっています。窓からマンションを眺め、40代くらいのお父さんと子どもたちが住んでいるのかと想像します。20年後はあのマンションに2世代は無理だろうと、どこかに新しい土地を見つけて新しい生活を始めるのだらうと思います。高齢化は着実に進みますが、トレンドどおりに人の流れができるのかと考えます。そういう人の流れも考えながら作っていきたいと思います。

隣の志免町は日本の町村区では一番人口密度が高いのですが、粕屋町は福岡県では志免町に続いて2番目です。皆さんが志免町のような町になりたいと思うのか。人が増えると車も増え、生活がだんだん窮屈になってきます。昨年大雨のときに宇美町までは結構増水していろいろな事故がありました。粕屋町はこのまま人が増えるに任せ、5万数千人というところまでいって、インフラが間に合うのかという心配もあります。こういうことも含めて検討を進めていったらどうかと思います。

事務局

まず、大もとの国が出している「まち・ひと・しごと創生法」の内容について、本日の資料等で準備していなかった点について、お詫びいたします。先ほど言われたように、第一章の「目的」で「国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成」ということがうたわれています。第二条が「基本理念」ということで、地方創生が目指す理念等が示されていますので、これについては、次回、資料を配布したいと思います。

粕屋町の状況については、平成27年度までは第4次総合計画で進めていますが、第4次総合計画の後期基本計画の中で、PDCAサイクルということをやっています。実質的に庁内では、各職場のほうでは各事務事業の評価等を行い、施策の評価ということで取りまとめた状態のものを外部評価という段階までやっています。今回の「まち・ひと・しごと創生」の計画の中でも、その辺の手法を活用して検証していけるのではないかと考えております。また、現在、第5次総合計画を策定していますので、そこで掲げている将来のビジョン等が1つの柱となって、総合戦略の策定にも臨んでいく必要があるかと思っております。現在、総合計画を策定する作業の中でも、住民のアンケート等も実施していますが、やはり、先ほど教えていただいたように、町民全員が、人口が増えることがいいと思っただけではありません。都市と自然のバランスが取れていることが粕屋町の1つの特徴として好まれ、住みやすさも感じられるという意見も頂いています。粕屋町の場合、約50%が市街化区域、残り50%が調整区域という形で残っています。残された50%の調整区域のどの程度を可住地として活用するべきか、今後、検討していく必要があると思っておりますので、そういうことも前提において、今後の審議を進めていただければと思います。

委員

言われたように、課題抽出や課題分析は重要だと思いますし、特に検証が大事だと思います。先ほど、事務局説明で町民アンケートによる検証という話がありましたが、今後、計画の内容、施策の内容の検証となれば、このアンケートだけでは不十分かと思えます。3,000名無作為抽出ということは、年齢が偏ったりする可能性もあると思えますが、その辺りは柔軟に、アンケートに限らず、いろいろなパターンで検証していくと解釈してよろしいでしょうか。

事務局

あくまでアンケートは、数値目標が達成されているかどうかを補完的に検証する資料という位置づけですので、具体的な基本目標や施策事業の目標を立てると

きは、数値目標やそれ以外のアウトカムなど、そういう目標を設定することとなります。実際に目標を立てるときも推進会議でご意見等を頂きたいと思っております。

委員 転出者の行先はデータがありますが、転出の理由についてはデータがないのでしょうか。個人的には、小学校までは伸び伸びした雰囲気は好きですが、中学、高校、大学と考えたときに学力が低いのです。だから福岡市に行くとか、福岡高校に入る子どもの数は圧倒的に海沿いが多いので、新宮や宗像等に出ていくとか、そういう理由がデータとしてあるのか、お聞きしたかったのです。

事務局 転出届を出されるときに、そういう調査を行っていないので、具体的な調査結果はないです。粕屋町は20年近く前から転入・転出が多い時代になり、今、言われたように、小さい子どもを育てる間は粕屋町で居住され、進学くらいになると転出される方が多い状況が続いていますので、1つの要因であるのかという気もします。

事務局 今回、実施しているアンケートでも、実際に数値からは拾えないようなご意見をお聞きしようと思っています。

委員 次回、質問の項目など、アンケートの資料を頂ければと思います。

委員 そういう視点で考えたらいいと思います。やはり、都会のほうが子育てをしやすく、コストもかかりません。難しい話をせずに、この町で足りないもの、こういうものが欲しい、ああいうものが欲しいというものを積み上げていって、1つずつ組み立てていくほうがいいと思います。アンケートも民意の裏付けとして非常にいいと思います。

また、役場の各職員が見聞きした情報はすごい量なので、そういう情報をうまく引き出す方法がないかと思っています。本人たちは大した情報ではないと思っているかもしれませんが、1つの組織に200人、300人いると、アンケート以上のものがあると思いますので、その辺りも活かしていただければと思います。

委員 小中学校、低学年の間は粕屋町で過ごし、高校になると転出するという原因に学力のことがあるという話がありました。若いころからPTA関係で携わっていますが、今、中学校は学力向上に非常に頑張っており、最近は肩を並べるくらいになったのではないかと思います、いかがでしょうか。

委員 私が子どものころは、取り立てて学力が高いというイメージはなかったのですが、粕屋東中学校の取り組みを聞いたりすると、かなり力を入れて、全国学力調査で全国平均をかなり上回る形で、かなり効果が上がってきているということですので、学校現場のほうはかなり力を入れているときではないかと思っています。

委員 10年、15年前にそういう指摘があったことが、今、結果に現れているのではないかと思います。子どもの学力を育てることは基本中の基本かと思っていますので、教育環境は大事なことだと思います。待機児童も随分改善されたとのことで、この調子で進めてほしいと思います。

先ほど言われたように、マンションの高い建物ができていますが、果たして次の世代がどうなるか、大きな問題だと思います。住む場所をどうするかという問題になりますが、農業委員会としては、上から土地を守れという指示があります。守るのが農業委員会の仕事ではないかと言われますが、都市近郊では全国一律の方法では駄目ではないかという意見は出しました。食料の確保も今日の命題です

が、最近ではTPP等で農業部門も押し進められていますので、どこに活路を見出すかも考える必要があります。

会 長 後半は教育関係の話がありました。粕屋町の教育についても、今後、話ができればと思います。

6. 事務連絡

次回推進会議日程：8月24日（月曜日）午前10時～

7. 閉会